

議 事 録

件 名	久留米市セーフコミュニティ認証現地審査 交通安全対策委員会	
日 時	令和5年年8月1日（火）9：15～10：15	
場 所	久留米シティプラザ5階 大会議室	
出席者	委 員	小西委員長、白倉副委員長、服部委員、西田委員、深川委員、山口委員、 工藤委員、岡崎委員、古賀(昭)委員、濱浦委員、田中(吉)委員、古賀(友)委員、 柳委員
	事務局	安全安心推進課（豊福主幹、岡補佐、坂田主査、古賀、田中）
欠 席 者	赤松委員、小松委員、田中(貴)委員、平林委員	
傍 聴 者	なし	
次 第	1. 開会 2. 出席者紹介 3. プレゼンテーション発表 「交通安全対策委員会の取り組みについて」 4. 質疑応答 5. 閉会	
審 査 員 【ペ先生】	【質疑等】 ○今回の報告で、データを確認し、どういった人を対象にすべきか、何が問題なのかを分析し取り組みをしていることが非常によく分かった。 韓国でも同じように高齢者の交通事故という問題に直面している。高齢になると身体機能や何かあった時に瞬時に反応する能力が衰えることが、事故に繋がっている。これは世界的な傾向であり、韓国でも高齢者の免許返納を推進している。 高齢者の方々に自覚してもらうためには、高齢者に対する交通安全教育を継続し、定期的の実施していくことが大切だ。 ここで、高齢者の交通事故削減に繋がった韓国の事例を紹介したい。退屈な講義では話が頭に入らず定着しないので、効果が出ない。そこで、韓国のキメ市（金海市）ではカラオケや踊りの教室に併せて交通安全教育を行うことで、交通安全に関心を持っていない、危険性を自覚していない高齢者への交通安全教育に繋げることができた。 現在の取り組みに参加している方ではなく、参加していない高齢者にどういったらアプローチできるのか工夫することが、今後のチャレンジではないかと思う。 次に、アメリカ等での自転車の状況や発表全体を通してのコメントを、オブザーバーのウィルソン先生から頂きたい。	

議 事 録

オブザーバー 【ウィルソン先生】	○自転車について。アメリカでは州や郡、市によって法律を定めるので、それぞれ異なる交通ルールがある。自転車乗車時にヘルメットを着用する必要があるところもあれば、必要ないところもある。場所によっては、自転車に乗ることすら考えられないようなところもある。 タンザニアでは自転車ヘルメットについての法規制がなく、ヘルメットを被らない人が多いため、頭部損傷が多く自転車の事故で亡くなる方が多い。 フィンランドでは、ヘルメット着用は義務ではなく努力義務だが、ほとんどの人が努力義務に従っており、非常に多くの方がヘルメットを被っている。また、車の運転者への教育に力を入れており、歩行者や自転車がいる場合には車は道を譲るといったことが定着しているため、重大な自転車の事故は少ない。 ○次に、25 頁について。今後の取り組みの参考になるかもしれないと思うのでコメントする。このグラフの数字に含まれない事故、記録されてない事故はないのか、それはどういう事故なのかということを見てもというのは、一つの方法だ。 もし、そういった事例を把握しているなら教えて欲しい。
委 員	交通事故として表に出てこないものとして、「ヒヤリハット」といい、交通事業者や市役所の職員が運転をしていて危ないと思った、危険な目に遭った場所を積み重ねたデータがある。しかし、対策委員会の中で共有できていない。
オブザーバー 【ウィルソン先生】	○それは非常に重要なポイントである。交通事故のデータは警察の情報だと思うが、他にも様々なデータがある。例えば、一つの事故をとっても警察が記録している情報と、事故を目撃していた人が持っている情報は別である。このグラフに含まれていないデータが、皆さんの取り組みをより効果的にするものかもしれない。警察のデータだけでなく、先ほど言われた「ヒヤリハット」のデータ等を使いながら多面的に取り組むことで、より成果がでるのではないかと思う。 最後に2つ質問をする。皆さんの取り組みの中で、一番自信を持っていると考える取り組みは何か、そしてそれはなぜか。
委 員	答えるのが難しいが、今から交通社会に出ていく子ども達や、自転車に乗り始めた子ども達に対する交通安全教育を警察と連携してしっかり実施していることが、長い目で見たときに、一番大事にしている取り組みだと考えている。
審 査 員 【ペ先生】	○データをしっかりと見て、リスクを判断し取り組みに繋げていることが非常によく分った。成果が出ていることも確認出来て非常に嬉しかった。また、分かり易い報告で私たちも参考になった。ありがとうございました。

指摘事項等	No	助言・指摘事項・課題
	1	【助言】高齢者の交通事故について 現在の取り組みに参加している方ではなく、参加していない高齢者にどうやったらアプローチできるのか工夫してみることが今後の取り組みのポイント。
	2	【意見】取り組み全体 警察の交通事故データだけでなく、他の交通安全に関する様々なデータを探し、活用することでより効果が出る取り組みに繋がると思う。